

和歌山県立 新宮高等学校同窓会報

磐 盾

第 39 号

平成24年3月1日発行
和歌山県立
新宮高等学校
同 窓 会
新宮市神倉三丁目2番39号

平成二十三年十一月六日

新宮高等学校創立百十周年 記念式典開催

日本体育大学名誉教授 正木健雄氏(新中四十二回卒)
前北山小・中学校校長 中瀬古友夫氏(新高二十一回卒)
が講演



西下県教育長



夏山会長



南方校長

人工芝改修工事
竣工モニュメン
ト除幕式
畑伸憲教頭が開
式を宣言し、南方

創立百十周年記念式典

創立百十周年記念式典は、畑伸憲教頭の開式宣言により幕を開け、国歌

斉唱、県民歌斉唱、校歌斉唱と続いた。南方孝之校長は、「郷土を愛し、グローバルな視野で社会のあり方を考え、行動できる地球市民としての生徒の育成が本校教育の使命の一つ。百十年にわたって培われてきた素晴らしい校風や良き伝統、その精神がこれからも脈々と受け継がれるとともに新宮高校が地域に開かれた学校として、またこの自然豊かな南国の私たちのふるさとの教育文化の担い手として、そして

最高学府として末永く発展し続けてほしい。創立百十周年記念事業としての中庭人工芝改修においては、社団法人新中会の皆様には、多大のご支援をいただき、また同窓会、振学会の皆様にもご協力をいただき心からお礼申し上げます」と式辞を述べた。



続いて、夏山晃一同窓会長が、「人工芝モニュメントには、私が非常に好きな言葉が刻まれていた。私自身はずっと持ち続けた言葉。昨晩還暦同窓会を開催し百七十名が一同に会した。同級生が集まって強い絆を感じた一日だった。皆さんもそういう横のつながり、

そしてこの新宮高校の百十年という長い縦のつながりを実感し、志を持って進んでいってほしい」と挨拶。

来賓を代表して、西下博通県教育長より祝辞をいた

だいた。続いて畑伸憲教頭が来賓を紹介した後、南方孝之校長より山口博正新中会会長に人工芝寄贈の感謝状が贈呈された。祝電祝詞披露の後、閉式宣言により式典は終了した。

記念式典の後、正木健雄名誉教授が標題で、長年に亘る詳細な研究データを示しながら講演を行った。

今こそ手を携えて各地域で子どもを守り発達させる英知と力の結集をお願いしたい。子どものからだの変化を頑固に追い求め、どこにどう取り組んだら日本の子どもの発達するか、ほぼ明らかになったので紹介してみたい。一九六〇年代頃から「子どもの体力が落ちた」といわれてきたが、「スポーツテスト」のデー

今一番深刻な問題は、「大脳の前頭葉」の働き、やる気の出るところの、興奮も、抑制も、強くないというタイプの子どもが、幼児で六割から七割いる。もっと興奮して、いたずらをする体験をしないとこの脳の部分が発達しない。去年の調査では、アレルギー、不眠、腰痛の次に鬱傾向が上がってきたのが新しい特徴。落ちているのは、五感ではなくて、「第六感」とか「第七感」ではないか。これらの感覚は、運動しないと発達しないので、た

くさん運動する必要がある。また、問題は「脳」ところと「免疫系」と「自律神経」のところにある。この解決のためには、アクティブな生活を取り戻さなくてはいい。まず、やる気をおこさせて、いろんな運動に挑戦させ、筋肉感覚を鍛えて、やる気が起こったら、次の課題に向かって挑戦してもらおう。身体はうまく取り組むと必ず発達するし、もっと発達させようという気持ちもおこってくる。たのしいスポーツランド・保養ランド・子どもの殿堂を熊野の地に作り、この熊野の地で「五十メートル走」と「走り幅跳び」と「ソフトボール投げ」の三種競技をやってもらいたい。この三種のスポーツをやれば、脳はうまい具合に発達することがわかっている。三種のスポーツと腰の力を比べあう「四種競技大会」の発祥の地に、紀南がなっほいい。そういう科学とロマンと連帯を、熊野の地域で熊野の学校で、みんなの智慧と力を集めて、「子ども」のからだの監視センターとしての学校の役割に今後大いに期待したい。

(二面へ続く)



同窓会会長 夏山晃一

ご挨拶

同窓会会員の皆様には、ご健勝のこととお慶び申し上げます。又、平素は同窓会活動に対して、絶大なるご支援とご協力を賜りますこと、厚く御礼申し上げます。昨年三月に発生いたしました東日本大震災では、巨大地震や放射能漏れなどの大惨事が発生し、日本中を震撼させました。震災は近い将来「東海・東南海・南海地震」の発生が懸念される当地にも強い衝撃を与えました。又、地震対策が叫

ばれる中、九月二日から四日にかけて紀伊半島を襲った台風十二号による記録的な豪雨は、熊野川の氾濫や大規模な土砂崩れを引き起こし、当地においても多くの尊い命を奪い、道路、鉄道等のライフラインの損壊、広範囲にわたる家屋の浸水など、今までにない甚大な被害をもたらしました。会員の皆様や親戚縁者で罹災された方もおありかと存じますが、心からのお見舞いを申し上げますと共に、一日

も早い復旧復興をお祈り申し上げます。このような中、母校におきましては昨年、創立一〇周年を迎えました。去る十一月六日には、南方校長・山口新中会会長、全日制・定時制の生徒も参加しての記念式典が盛大に開催され、学校、振学会の皆様と共に一〇年の歩みをお祝い致しました。又、新中会の皆様が一〇周年記念事業の一環として改修に取り組んで頂きました中庭の人工芝

改修工事竣工モニュメント除幕式も併せて行われました。式典終了後は、記念事業として新中四十二回卒業の日本体育大学名誉教授であります正木健雄氏から「こどものからだの監視センターとしての学校」、又、新高二十一回卒業の前北山小・中学校校長の中瀬古友夫氏から「絵葉書と歌で綴る熊野新宮一〇年」をテーマにそれぞれ講演を頂きました。同日、夜に開催致しました同窓会総会には、多くの同窓生にご参加を頂き、先輩・後輩の交流を図ることが出来ました。又、総会では役員改選も行われ新体制でのスタートを切ら

せて頂きました。新しく役員にられました皆様には、より一層のご協力をお願いする次第でございます。同窓会は、母校の歴史と伝統に支えられ、多くの同窓生の皆様との絆を大切に温かい繋がりを持って活動を続けております。皆様方の交流、情報交換の場として、又、後輩である在学生達に様々な応援ができる会でありたいと考えています。今、わが国が大変な時だからこそ皆様方との強い絆が求められていると思います。今後とも同窓会活動へのご理解・ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

せて頂きました。新しく役員にられました皆様には、より一層のご協力をお願いする次第でございます。同窓会は、母校の歴史と伝統に支えられ、多くの同窓生の皆様との絆を大切に温かい繋がりを持って活動を続けております。皆様方の交流、情報交換の場として、又、後輩である在学生達に様々な応援ができる会でありたいと考えています。今、わが国が大変な時だからこそ皆様方との強い絆が求められていると思います。今後とも同窓会活動へのご理解・ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

平成23年度総体の結果

●インターハイ出場	
バドミントン部	ダブルス=角、飯田(3-3)
弓 道 部	男子個人=西惟浩(3-1)
●近畿大会出場	
陸上競技部	男子100m=井戸莊太(3-6)、女子100m・200m=前田祐里(2-1)
ソフトテニス部	男女
軟式野球部	ベスト4
卓 球 部	団体=女子、ダブルス=男子 谷口(1-4)・楠本(1-3)組、女子向井(3-4)・尾中(3-6)組、シングルス=女子 尾中(3-6)
●県予選結果報告	
空 手 道 部	男子／団体組手=第3位 女子／団体組手=準優勝 男子／個人組手=ベスト8 上田倫大(1-1)、中納拓海(2-6) 女子／個人組手=第3位 大石彩日香(2-4)、ベスト8 貴志はるか(3-4) 男子／個人型=ベスト8 柿本直哉(1-6) 男子／団体=5位 女子／団体=5位 男子／個人=2位 西惟浩(3-1)(インターハイ出場) 男子／団体=予選リーグ敗退 男子／個人=上路匠平(3-4) 4回戦敗退 ベスト16 男子／団体=ベスト8(近畿大会出場) 女子／団体=ベスト8(近畿大会出場)、個人=ベスト16 谷口(1-4)、林(2-1)(近畿大会出場) 田中(1-2)、道中(1-2)(近畿大会出場)
弓 道 部	男子／団体=1回戦敗退、ダブルス=ベスト8 谷口(1-4)・楠本(1-3)組(近畿大会出場) 女子／団体=ベスト8(近畿大会出場)、ダブルス=ベスト4 向井(3-4)・尾中(3-6)組(近畿大会出場)、シングルス=ベスト16 尾中(3-6)(近畿大会出場)
剣 道 部	5月 近畿大会出場、7月 県大会 準優勝、10月 新人戦県大会 優勝、11月 近畿大会 優勝
ソフトテニス部	男子／1回戦=対海南(29-23)勝ち、2回戦 対貴志川(20-31)負け、敗者戦=1回戦 対桐蔭(36-19)勝ち 2回戦 対粉河(20-28)負け 女子／1回戦=対耐久(49-8)勝ち 2回戦=対県和商(8-38)負け、敗者戦=1回戦 対貴志川(16-11)勝ち、順位決定戦=対粉河(13-14)負け 第3位
卓 球 部	男子／1回戦=対向陽(98-63)勝ち 2回戦=対和歌山工業(71-83)負け ベスト16 女子／1回戦=対橋本(67-60)勝ち 2回戦=対星林(33-75)負け ベスト16 女子／ベスト16
軟式野球部	団体=男子 2位、女子 3位、ダブルス=男子 1位 角玄太(3-3)、飯田涼(3-3)(インターハイ出場)、ダブルス=女子 3位 玉井彩香(3-2)南麻乃(1-3)、シングルス=男子 3位 角玄太(3-3)、3位 飯田涼(3-3)、シングルス=女子 3位 南麻乃(1-3)、ベスト8 玉井彩香(3-3)
ハンドボール部	男子／100m 第6位(11'33)井戸莊太(3-6)(近畿大会出場) 女子／100m 第6位(12'88)前田祐里(2-1)(近畿大会出場)、200m 第6位(26'93)前田祐里(2-1)(近畿大会出場)、4×400mリレー 8位(4'21'83)
バスケット部	春季大会 1回戦=対合同(12-7)勝ち、2回戦=対近大(0-56)負け ベスト8 選手権大会 1回戦=対那賀(59-0)勝ち、2回戦=対田辺(8-33)負け ベスト8 1回戦=対紀史館(0-6)負け
バレーボール部	
バドミントン部	
陸上競技部	
ラグビー部	
サッカー部	

平成23年度総体以降の結果

空 手 道 部	新人戦 男子団体組手=準優勝、女子個人組手=ベスト4 大石彩日香(2-4) 近畿大会 男子団体組手=ベスト8 中納(2-6)、和田(2-4)、上路(2-4)、上田(1-1)、柿本(1-6) 2011北東北総体 男子個人=西惟浩(3-1) 予選敗退 県高校弓道選手権大会 男子個人=加味根慶一(2-7) 第10位 女子団体=西風香(2-2)、田中真由(2-1)、野地恵実(2-6)、河野静奈(2-6) 第5位 第64回近畿高等学校弓道大会 男子個人=加味根慶一(2-7) 予選通過 女子団体=西風香(2-2)、田中真由(2-1)、野地恵実(2-6)、河野静奈(2-6) 予選敗退 平成23年度 県高校弓道新人大会 女子個人=野地恵実(2-6) 第6位、河野静奈(2-6) 第7位 女子団体=西風香(2-2)、田中真由(2-1)、野地恵実(2-6)、河野静奈(2-6) 第5位
弓 道 部	県下高校剣道段級別選手権大会 男子 二・三段の部=星山(2-7)1回戦敗退、有段の部=清原(2-3)1回戦敗退、南(1-6)2回戦敗退 女子 二級以下の部=浅利(1-1)1回戦敗退 県高校剣道新人大会 団体戦予選リーグ=新宮対紀北工業(0-4)、新宮対開智(1-3) 個人戦=星山(2-7)2回戦敗退、清原(2-3)2回戦敗退、南(1-5)1回戦敗退 女子 浅利(1-1)1回戦敗退 夏季大会 男子 個人=石田(1-6)・山門(1-3)組 ベスト32 新人戦大会 男子 団体 ベスト8=2回戦 対和歌山東(3-0)勝ち、3回戦 対南部龍神(2-1)勝ち、4回戦 対笠田(0-2)負け 個人=古田(2-2)・城村(2-3)組 ベスト32 夏季大会 女子 個人=谷口あすか(1-4)、林真衣佳(2-1)、田中茉夕佳(1-2)、西春花(2-1) ベスト16、浜知香(2-5)、栗山真菜(2-1)、崎上野真子(2-1)、道中るか(2-1) ベスト32 新人戦大会 団体=準優勝 個人=谷口あすか(1-4)、林真衣佳(2-1)、田中茉夕佳(1-2)、西春花(2-1)、浜知香(2-5)、栗山真菜(2-1) ベスト16 近畿大会 団体=予選リーグ敗退 個人=谷口あすか(1-4)、林真衣佳(2-1) 初戦敗退 田中茉夕佳(1-2)、西春花(2-1) 初戦敗退 浜知香(2-5)、栗山真菜(2-1) 初戦敗退 新人戦 準決勝=新宮対箕島(6-0)、決勝=新宮対南部(2-1) 優勝 秋季近畿地区高校軟式野球大会 2回戦=新宮対東大寺学園(3-1)、準決勝=新宮対芦屋学園(2-0)、決勝=新宮対師磨工業(3-0) 優勝
ソフトテニス部	第93回高等学校野球選手権和歌山大会 2回戦=新宮対智辨和歌山(4-9) 敗退 平成23年度県下高校野球新人戦 1回戦=新宮対智辨和歌山(1-11) 敗退 平成23年度秋季近畿地区高等学校野球大会 県一次予選 2回戦=新宮対国際海洋高等学校(0-5) 敗退
卓 球 部	新人戦 男子団体=新宮対田辺高校 2回戦敗退、ダブルス=楠本航也(1-3) 谷口幸広(1-4) ベア 準優勝、シングルス=ベスト16、女子シングルス=名古屋優香(2-2) ベスト16(大阪国際招待卓球選手権大会出場) 近畿大会 男子ダブルス=新宮対龍谷大平安 1回戦敗退 新人大会 男子 1回戦=新宮対新翔(27-2)、2回戦=新宮対紀北農芸(8-30)、女子 1回戦=新宮対耐久(28-4)勝ち、2回戦=新宮対和商(4-40)負け、シード順位=新宮対那賀(20-17)勝ち 第3位
ハンドボール部	秋季バスケットボール選手権大会 男子 1回戦=新宮対貴志川(80-62)勝ち、2回戦=新宮対初芝橋本(68-104)負け ベスト16 紀南地区予選 男子 第3位 新人大会 男子 1回戦=新宮対高専(85-74)勝ち、2回戦=新宮対開智(68-104)負け ベスト16 秋季バスケットボール選手権大会 女子 1回戦=新宮対向陽(54-74)負け 新人戦 女子 1回戦=新宮対初芝橋本(95-37)勝ち、2回戦=新宮対和歌山北(57-93)負け
バスケット部	平成23年度和歌山県バレーボール選手権大会 決勝トーナメント 敗退 平成23年度冬季紀南バレーボールリーグ 第5位
バレーボール部	



平成二十三年
第57回 青少年読書感想文
コンクール県審査

●最優秀賞 自由図書
植地南月さん(三年七組)
「自分とは」
伊吹有喜著『四十九日のレシビ』ポプラ社

●最優秀賞 課題図書
牧 沙樹さん(三年四組)
「マルカの長い旅を読んで」
ミリヤム・ブレスラー著 松永美穂訳
「マルカの長い旅」徳間書店

●最優秀賞 指定読書の部
笠松冬生君(二年組)
「記憶の断片」大島真寿美著『エタ』ポプラ社

●優秀賞 自由読書の部
一河日向花さん(二年四組)
「ひとり」夏目漱石著「ころ」ホルブ出版

●最優秀賞 指定読書の部
牧 沙樹さん(三年四組)
「クリスマス」の奇跡」
ローズマリー・サトクリフ著 乾侑美子訳
「ほりまみれの兄弟」評論社

●最優秀賞 指定読書の部
松下 穂君(一年五組)
「自分、思い、無限大」
ジョン・ワインダム著 金利光沢『ナシギ』

●最優秀賞 指定読書の部
笠松冬生君(二年組)
「記憶の断片」大島真寿美著『エタ』ポプラ社

●優秀賞 自由読書の部
一河日向花さん(二年四組)
「ひとり」夏目漱石著「ころ」ホルブ出版



バドミントン部	第66回国民体育大会バドミントン競技和歌山県代表選手選考会 男子ダブルス=角玄太(3-3)、飯田涼(3-3) 第2位、男子シングルス=飯田涼(3-3) 優勝、角玄太(3-3) 第4位 平成23年度全国高校総体バドミントン競技大会 男子ダブルス1回戦=(角玄太・飯田涼組)対甲府商業(2-0) 勝利、男子ダブルス2回戦=(角玄太・飯田涼組)対聖ウルスラ学院英智(0-2) 負け 第66回国民体育大会バドミントン競技近畿ブロック予選会 少年男子=角玄太・飯田涼組 第6位 第58回近畿高校バドミントン選手権大会和歌山兼予選会 男子ダブルス=山田大介・速水俊弥組 ベスト8、飯田歩・山縣直人組 ベスト8、男子シングルス=飯田歩 ベスト8、女子ダブルス=南麻乃・中西愛美組 ベスト8、女子シングルス=南麻乃 ベスト8 第58回近畿高校バドミントン選手権大会 男子ダブルス=山田大介・速水俊弥組 2回戦敗退、飯田歩・山縣直人組 2回戦敗退、男子シングルス=飯田歩 2回戦敗退、女子ダブルス=南麻乃・中西愛美組 3回戦敗退、女子シングルス=南麻乃 2回戦敗退 平成23年度近畿高校新人バドミントン大会 男子ダブルス=飯田歩・山縣直人組 ベスト8、男子シングルス=飯田歩 ベスト8、女子ダブルス=鳴戸明日香・萩原麗実組 ベスト8、南麻乃・中西愛美組 ベスト8、女子シングルス=南麻乃 ベスト4、中西愛美 ベスト8 第44回和歌山県高等学校ユース陸上競技対校選手権大会 2年 女子=第2位 100m 前田祐里 13'02、第2位 200m 前田祐里 26'33、1年 男子=第2位 やり投げ 高健佑 41m40 近畿大会 予選敗退 選手権大会 1回戦=対那賀(59-0)勝ち、2回戦=対田辺(8-33)負け ベスト8 新人戦大会 予選リーグ 1回戦=対那賀(22-14)勝ち、2回戦=対田辺(19-21) 勝ち 決勝トーナメント 1回戦=対和歌山工業(14-38)負け ベスト8 第90回全国高等学校サッカー選手権大会和歌山大会 1回戦 新宮対田辺工業(2-3) 新人戦県大会 1回戦=新宮対初芝橋本(0-2) ベスト16
陸上競技部	
ラグビー部	
サッカー部	

平成23年度文化クラブ成績

書 道 部	第31回近畿高等学校総合文化祭滋賀大会 出品 久保夏実(3-5) 第32回近畿高等学校総合文化祭和歌山大会出品(来年度) 林宝花(2-2) 第36回全国高等学校総合文化祭富山大会出品(来年度) 北一葉(2-7) 第63回県高等学校書初大会 特別賞=中村学行(1-6) 特 選=北一葉(2-7)、間所実里(2-6)、山川美希(2-7)、渡瀬由理佳(2-7)、鈴木千明(1-4)
美 術 部	平成23年度「紀州・山の日」絵画コンクール うばめかし賞 大畑友貴(3-5) 薬物乱用防止啓発ポスター 入選 長谷川愛(3-2)
吹 奏 楽 部	第47回和歌山県吹奏楽コンクール 高等学校A部門 銅賞

★大学入試センター試験
(1/14・15)
一三名がセンター試験を受験しました。本校生徒の受験会場は県立向陽高校。本校受験生は大きなトラブルもなく受験することができました。学校では後期試験(三月十二日頃)が終わるまで、二次対策補習を行って受験生を支援します。受験生は最後まで粘り強くがんばって下さい。
★熊野古道ロングハイキング(2/4)
台風災害の影響で延期して実施しました。一学年と

一般参加者が小雲取り越えを行いました。
★卒業証書授与式(3/1)
第六十四回卒業証書授与式
☆定通陸上競技県大会で本校生徒活躍
九月二十五日(日)橋本陸上競技場において県下高校定通総体の陸上競技大会が開催された。本校より三年生垣内大志君、谷口良太君が一〇〇m、二〇〇mに出

場し、垣内君が一〇〇m、二〇〇mで優勝(二年連続)、谷口君が一〇〇mで三位、二〇〇mで二位入賞を果たし、二人とも近畿大会出場が確定した。



☆三年生修学旅行
十月二十七日(木)、二十八日(金)、神戸・奈良・大阪への修学旅行(一泊二日)に三年生十一名が参加した。初日は早朝、バスで新宮高校を出発。神戸の『人と防災未来センター』を訪問し、語り部の話を聴き、施設見学。その後奈良市内に移動し、興福寺を見学。自由行動の後、市内のホテルに到着し、夕食。二日目は午前中、薬師寺、法隆寺を見学。その後、バスで大阪市内に移動。『海遊館』を訪れ、飼育体験のプログラムに参加し、館内見学。全行程を終え、バスで新宮高校に午後九時に無事に到着した。

☆校内生活体験発表会
十一月十八日(金)恒例の校内生活体験発表会を開催した。本年度は県定通生活体験発表会に出場し、それぞれ優秀賞を受賞した三年生の井浜裕佳さんと谷口良太君が「感謝」、「ベストを尽くす」というタイトルで全校生徒の前で発表。講評で南方校長は「壁を乗り越えてきたことで、それぞれ大きな成長が見られます。素晴らしい発表でした。」と述べて二人を称えた。当日は学校評議員や育友会役員、保護者の方々も来校され、二人の発表に大きな拍手が送られた。

同窓会・振学会も
綱引きに参加
— 体育祭にて —



雨により延期された体育祭が、十月十八日(火)に実施された。同窓会・振学会参加の綱引きでは、生徒の優勝チームと対戦した。参加者全員で力を合わせて綱を引いたものの、若い力には勝てず惜敗した。生徒たちは去年の雪辱を果たした。

ご挨拶

新中会会長 山口博正



「新中会」の皆様お元気でお過ごしでしょうか、昨年九月の大水害で被災にお会いになられた方々も多いのではと心よりお見舞い申し上げます。

さて昨年八月の総会で理事の改選と共に左記の私達が役員に選出されましたのでお知らせ申し上げますと共に御指導、御鞭撻の程よりしくお願い申し上げます。

（一）平成二十五年十一月迄に現在の社団法人「新中会」は法改正により一般社団法人が公益社団法人に移行申請をして認可を受けねばならぬこと

（二）会員の殆んどが八十才を越え、法改正を機に「新中会」の組織、運営について再検討すること

（三）このたびの水害で一部崩落していますが「新中

第一回新宮高校体操部OB会

平成二十三年十月二十五日(火)、ホテル中の島に於いて新宮高校体操部OB会が開催された。

卒業以来半世紀以上の時



その内、発起人により準備を経て、発起人により準備会を立ち上げ名簿作りからスタートした。五ヶ月で約六十名の情報を収集。会員名簿が仕上がる。

東、関西、広島より

の参加もあり予想を上廻る二十七名の参加となった。

「初めての名簿」

新高同窓会報「磐盾」を配布、写真撮影に始まり司会進行係により開会宣言、物故者(九月十二号台風

の犠牲者も含む)への黙祷を捧げた。川島氏(五回卒)の乾杯発声のあと懇親の宴となる。

五十有余年の空白もなく終始和やかに青春時代を謳歌した当時を懐かし語り合った。最後に校歌と「ふるさと」を合唱閉会挨拶、一本締で括る。

次回開催を二、三

彩雲祭

同窓会物品バザー

第十八回彩雲祭(六月十八日(土))において、昨年に引き続いて、「同窓会物品バザー」を実施いたしました。結果、多くの方のご協力により、三十万円の収益がありました。七月七日には、夏山晃一同窓会会長と生駒寄支子同窓会副会長(バザー委員長)より、東日本大震災の義援金として日赤県支部新宮市地区事務



局の奥西誠人・新宮市社会福祉協議会事務局長に寄託いたしました。準備・運営とご協力いただきました同窓会員の皆様、誠にありがとうございました。



ロングハイキング

小雲取越え

九月の豪雨災害の影響を受け延期となっていた第二十一回ロングハイキング(小雲取越え)が、平成二十四年二月四日(土)に青空の下、一年生二百四十名、教職員五十一名、保護者・同窓生・一般二十五名の参加



「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されて七年が経ち、熊野古道を歩く海外からの観光客も珍しくなくなりました。新宮高校では郷土文化を学ぶ貴重な行事として、二十年前から熊野古道ロングハイキングを実施している。来年度実施の際には、同窓会員の皆様にも多数ご参加いただきたく思いますのでよろしくお願いたします。

平成23年度 関東新中会 「徐福」伝説を聴く

太平洋戦争後の学制改革にもとづき、県立新宮中学校、同新宮工業学校、同新宮高等女学校等が統合、再編されて県立新宮高等学校(新高)が発足したのであるが、明治二十三年誕生の新宮中学校(新中)の歴史をも受け継いでいる同校は今年、創立一〇周年の節目を迎えることとなった。そして去る十一月六日、その記念式典が新高体育館で行われ、在校生に交って前記旧制各校の同窓会員も多数参集し、各校各同窓会員同士もいまではすっかり一体化しているのが明らかであった。その強い絆の力の一つとなつて、旧新中同窓会を改編・組織化した「社団法人新中



平成23年度関東新中会 2011年10月30日 於 アルカディア市ヶ谷(旧私学会館)

ケ谷で開催された。

渡邊朝郎会長、東日本大震災、台風十二号の紀伊半島直撃による大災害で亡くなられた方々を悼み、併せて被災者へのお見舞いを申し乍らの開会の挨拶に続いて、社団法人新中会山口博正会長・関西新中会宇井規会長・新宮高等学校同窓会夏山晃一會長・新宮高等学校南方孝之校長・同校大谷貴彦教諭・



津越由康氏

國見一郎教諭等のそれぞれの立場からの挨拶、報告等があり、榎本貢幹事、久保倫生幹事の会務報告や監査報告等があつて当会恒例の講演会に移った。



旧制新宮中学校



新宮高等女学校



新宮高校

津越由康氏で、その墓と言われる碑も新宮駅近くに在り、出席者にもひとしおなじみ深い「徐福」に関する研究成果を披露してもらつた。とりわけ、徐福が編集したと言われる「神皇紀」の現在語訳業を通して得た日本の超古代史にふれられたのは、氏ならではのことであった。

続いて、古角又男幹事司会による懇親会は新中三十三回卒業(昭和十七年)の竹内繁清氏の乾杯音頭で始まり、このときこそはだれはばかりことなく新宮籍、熊野籍が飛び交う中で今年は東日本大震災や台風十二号の惨状を悼む話題も多かった。

なお、当日の出席者は次の方々であった。

(文責・田代 均)

渡邊朝郎(会長、竹内繁清、赤堀恒夫、井戸淳次、小坂博康、塩崎展史、田代均(幹事)、玉置広親、藤野雄二、清水侃、奥野幸導、東昭、久保倫生(幹事)、古角又男(幹事)、新富司、正木健雄、山野博滋、吉田太一、筒井増男、平井慶一、大石通明、鈴木富三、田中輝夫(新高女卒業生卒業年次順))

宮戸富子、杉本郁子、河村倫子、玉置昭代、渡邊清子、榎本美津、小川美栄子、清水とも子、土佐睦恵、平間誠子、源馬博子(新高女卒業生卒業年次順))

門高、赤松郁代、玉置晋司、角隆平、田中長夫、松田裕、山口宣品、森弘明、関潤三、仲神一、桂五郎、宇井久、丸山富子、米山万寿子、由比五男、下川貞子、田中穂、長島秀和、野村和子、大前卓也、岸偉作、木村徹三、玉屋正行、千代田学、西秋男、山崎漢子、青木英輔、岸周雄、山田殖保、濱口逸雄、齊藤昌江、宇井美智代、関武、長澤紀子、山田美智子、網野宏彦、山口雅文、山口喬也、大久保幸枝、倉谷徹二、小阪尚弘、清水美千子、津田直和、中根伯子、三宅洋一、山下雅行(幹事)、向井弘次、谷畑秀樹、森田皓誠、南木洋士、松葉邦幹、石垣時彦、榎本貢(幹事)、小久保泰宏(幹事)、藤井和子、後呂眞次、淵上敬、前清、城和生(幹事)、鈴木鉄志、國見京子、坂本安美、寺本浩和、山林龍司、山本真次

台風十二号被災地の復興を祈念して

新高第二十二回卒業還暦記念同窓会

総勢百七十名がホテル浦島に集う

新宮高校第二十二回(昭和四十五年三月卒)卒業生の同窓会が、平成二十三年十一月五日に、勝浦・ホテル浦島で盛大に挙行されました。

昭和四十五年の卒業生は約四五〇名(十一クラス)で、今年還暦を迎え、新宮高校を卒業して四十二年目にあたる。

世話人会の幹事の二十三名が五月から集まって名簿づくりを始め、各同窓生に案内のハガキを送付した矢先、九月三日に台風十二号豪雨の被害が発生し、地元をはじめ紀伊半島は大きな被害を受けたため、一時は中止も考えたが「こんな時だからこそやろう」という声が上がって開催されました。

遠くは北海道から先生方を含め、一七〇名が集い、高校生当時の写真を引き伸ばした名札を首から下げ、四十二年ぶりの旧交を温めあう、本日に楽しい時間が流れました。当日、先生方は二組の船上先生、木戸地先生、六組の北沢先生、建

築料の崎久保先生、常富先生の五名がはるばる駆けつけてくださいました。まず物故された仲間を偲んで黙祷。発起人を代表して、夏山晃一君が、台風十二号による豪雨災害にふれ、被災地復興の思いを語り、最後に「本日、このように一堂に大勢の皆さんとお会いできたことを大変うれしく思います。久しぶりの再会で大いに盛りあがっていただきたいと思います。」と挨拶。

同窓生という同じ財産を共有できる仲間同士が大いに語り明かし、宴もたけなわの中で、校歌斉唱。会場では新宮高校の旧校歌のCDを流して、『日よ照り輝け、晴れたり青空』とみんな高校生に戻って、大きな声でうれしそうに歌いました。会場では台風十二号義援金の募金箱を設置するなど有意義な楽しい夕べでありました。万歳三唱の後も去る人はほとんどありませんでした。

二次会に用意したカラオケスナック「ハーバーライト」「浜千鳥」も定員を越

える大盛況で、三ヶ所に分かれて、懐かしの青春歌謡など、日頃鍛えた喉や芸を披露しました。

また今後再会の機会を増やしていくと、うさぎ年とたつの年の語呂合わせで「うだつの会」を結成し、再会を約束してお開きとなりました。

台風十二号災害義援金を
那智勝浦町と新宮市へ



寺本町長に義援金を手渡した佐藤氏(右)と西川氏(左) 提供/紀南新聞社



田岡市長に義援金を手渡した川辺氏(右)と橋本氏(左) 提供/熊野新聞社

十一月五日、那智勝浦町内のホテルで同窓会を開いた第二十二回卒業生代表(佐藤純造、西川正修、川辺和彦、橋本順子、各氏)らが、「このたびの未曾有の大水害の復興に地元出身者として少しでもお役に立てれば」と集めた災害義援金をそれぞれ十万円ずつ、那智勝浦町寺本眞一町長、新宮市田岡実千年市長に手渡した。

寺本町長、田岡市長らは「同窓会で義援金を募ってくれたことに心から感謝しており、被災者の生活が安定できるように役立てたい。」とお礼を述べた。

新宮中学・新宮高女・新宮高校
新宮三校同窓会関西支部総会
～ふるさと、を合唱～

「鬼追いの川」のやま小鮒釣りの川……涙ぐみながら歌う人、故郷への想いをかみしめ目を閉じて和する人、参加者全員のそれぞれの想いを込めた大合唱「ふるさと」の歌声が浪速の空に流れ、会場は大いなる盛り上りをみせた。あくまでも青い牟婁の海、山、川、空の情景に思いを馳せた人も数多くいたことだろう。

新宮三校同窓会関西支部(新宮中、新宮高女、新宮高)の平成二十三年総会は六月四日ホテル・アウリーナで福岡、東京、新宮からの参加も含め一〇六名で開催された。

今回の総会は東日本大震災のあとでもあり一部に自粛の声も出たが、関西から被災地に応援の元気なメッセージを届けようとする通



旧制新宮中学校



新宮高等女学校



新宮高等女学校



1組 2組 3組 6組



4組 5組 7組



8組 9組 建築 土木

新宮三校同窓会関西支部(新宮中、新宮高女、新宮高)の平成二十三年総会は六月四日ホテル・アウリーナで福岡、東京、新宮からの参加も含め一〇六名で開催された。

今回の総会は東日本大震災のあとでもあり一部に自粛の声も出たが、関西から被災地に応援の元気なメッセージを届けようとする通



新宮高校



新宮高校

出石は『古事記』『日本書記』にも名前の見える歴史の古い町であり、見どころも多く街歩きに格好の地として知られている。

昼食はお目当ての皿そば。出石焼きの白地の小皿に盛り上げることが名の由来であり、うどんが主流の関西では屈指のそば処である。毎春にそば大会が開かれ、これまでに記録は百三十三枚とか。

昼食後は沢庵和尚が再興した庭園も見事な「宗鏡寺」などの旧跡を見物。道中、地元の人から採取中の熟柿を頂くハプニングもあった。次にコウノトリ郷公園へ向かう。日本で唯一、自然

の方も気軽に同級生の輪の中に溶け込み懐旧談などで和やかな時間を楽しんでいた。

三校別の校歌斉唱・写真撮影と進み大平益央さん(新中四十五回・新高三回卒 新高甲子園初出場時のメンバー)の音頭で恒例の三本締め、山川昭吾さん(新中四〇一回)の閉会の挨拶で午後二時半過ぎに、お互いの健康と次回の再会を約して閉会した。

新宮三校同窓会バスツアー



出石の辰鼓楼前

出石の皿そば・コウノトリ郷公園
三校同窓会バスツアー

新宮三校同窓会(新宮中、新宮高女、新宮高)の平成二十三年バスツアーは十月二十七日に三十一名が参加、八時半に大阪駅前を出発し、出石の皿そば、コウノトリ郷公園、出石の辰鼓楼前をめぐり、午後六時半に大阪駅に到着し解散。